

第 19 回
オリエンテーリング世界選手権大会
報告書

2001 年 7 月 28 日～8 月 4 日
Tampere, Finland

WOC SQUAD JAPAN



2001年世界オリエンテーリング世界選手権大会の日本代表選手は、戦いを終え無事帰ってまいりました。これまでさまざまな形で、ご支援ご協力いただきました皆様に深く感謝いたします。

日本人が初めてオリエンテーリングの世界選手権に挑戦したのが、1976年のことですから今回は25年目、ちょうど四半世紀の節目をむかえたこととなります。その間にわれわれは確実に進歩してきました。技術も走力も取組みのマインドも、選手層の厚みもです。そして、不断の努力の積み重ねが成果として表れていることはまぎれもない事実です。しかし、スポーツの評価が相対的なものである以上、われわれの進歩と同じくらい進歩している世界を相手に、今回の結果は厳しいものでした。競技レベルが上がった分、要求される技術もスピードも格段に高くなっています。スプリントが今回から採用されたように、より精緻な地図で、わずかなミスも許されない高いテクニックとハイスピードのレースが要求されています。

皆さんご存知の通り、2005年には、世界選手権の日本での開催が決定しています。「あと4年」なのです。私はアジアで初めてのオリエンテーリング世界選手権が立派に開催するということには興味はありません。それよりも、地の利を生かし日本選手がかつてない結果を出すことに大きな意義を感じています。日本でオリエンテーリングという競技が今後大きく発展していくためには、地元で表彰台に乗りメディアに注目されることが必要になってきます。

「あと4年」は「過去25年」に比べると短いように聞こえます。しかし「あと4年」もあると考えればやれることはたくさんあります。

今回の結果でわかったことは、今までと同じ準備をしてはだめだということ。われわれが、どんなに努力をしても、スポーツの評価が相対的なものである以上、結果を出すためには相手を追い越さなければなりません。そういう努力が必要なのです。「あと4年」、選手もスタッフも支援組織も変わらなければいけません。これまで以上の取組みをして、世界を追い越し、そして結果を出すことが何よりも大事なことになってくるのです。

これからも、更なるご支援のほど、よろしく願いいたします。

2001年8月24日

WOC SQUAD JAPAN 代表 宮川 達哉

日本代表チーム選手団

男子：松澤 俊行，村越 真（男子コーチ兼任），鹿島田 浩二，高橋 善徳，加賀屋 博文，
安井 真人

女子：金並 由香，塩田 美佐，落合 志保子，田島 利佳，中村 正子

役員：藤井 範久（ゼネラルマネージャー），山岸 倫也（女子コーチ），加賀屋 寿理（マネージャー）

日本代表選手選考レース第1戦で代表選手に選考された木植 早生は，体調不良のため出場を辞退した。

世界選手権大会遠征までの経緯

予備選考レース

2000年

11月5日 予備選考レース第1戦 東日本大会 上位7名が本選考会参加資格を得た

11月26日 予備選考レース第2戦 多摩OL大会 上位7名が本選考会参加資格を得た

2001年

2月4日 予備選考レース第3戦 ショートディスタンスレース 上位7名が本選考会参加資格を得た

3月25日 予備選考レース第4戦 全日本大会 上位10名が本選考会参加資格を得た
さらに全日本選手権者（松澤，金並）が日本代表選手に選考された

日本代表選手選考レース

4月15日 第1戦ショートディスタンス 岐阜県中津川市・恵那市「根の上高原」

4月30日 第2戦クラシックディスタンス 静岡県富士市「勢子辻」

第1戦，第2戦とも，優勝タイムの105%以内の選手を日本代表選手に選考し，さらに，スコード強化部が実績等を考慮して日本代表選手を追加選考した。

国内強化合宿

5月 3～5日 第1回強化合宿 静岡県富士周辺

5月 19～20日 第2回強化合宿 岐阜県根ノ上高原周辺

6月 16～17日 第3回強化合宿 静岡県富士周辺

7月 7～8日 第4回強化合宿 山梨県八ヶ岳周辺

世界選手権大会

7月21日 最終トレーニングキャンプ（合宿）開始

Loytanavuori（クラシックディスタンスタイプのテレイン）で練習

22日 Savonkyla, Siitama（ショート，リレータイプのテレイン）で練習

23日 Viitapohja, Savonkyla（ショート，リレータイプのテレイン）で練習
夕方から地元のミニレースに参加

24日 Pehunpera（クラシックディスタンスタイプのテレイン）で練習

25日 休養日 一部の選手は Savonkyla, Siitama で練習

- 26日 Aitovuori (クラシックディスタンスタイプのテレイン) でテストレース
 夕方から地元のスプリントレースに参加
 27日 Honkaniemi (クラシックディスタンスタイプのテレイン) で練習
 28日 Aitovuori (モデルイベント), 開会式
 29日 スプリントレース
 30日 クラシックディスタンス予選
 31日 クラシックディスタンス決勝
 8月 1日 Aitovuori (モデルイベント)
 2日 リレー
 3日 ショートディスタンス予選
 4日 ショートディスタンス決勝, 閉会式, バンケット

会計報告 (暫定版)

支出		収入	
エントリー費	440,804	選手負担金	1,785,000
宿泊費 (7/21~8/5)	832,186	賛助会員援助金	417,500
食費 (補色を含む)	233,179		
レンタカー、ガソリン、バス等	556,173		
練習用地図購入費	51,300		
タンペレゲームズ参加費	9,000		
チーム用医薬品、洗濯、切手等雑費	71,140		
<hr/>		<hr/>	
合計	2,193,782		2,202,500

本報告書の印刷時では、クレジットカードで支払ったレンタカー代などが未請求であるため、最終的な会計報告書は多少異なると思われます。

田島 利佳

今回はスプリント、リレー2走、ショート予選の3レースを走りました。以下出場したレースの報告です。

<スプリント>

より魅せるイベントとして初採用になったスプリントは、縮尺1:5,000、2.2km~2.5 km、12分前後のタイムで世界チャンピオンが誕生する。スタート・ゴールはイベント会場、森の中でのオリエンテーリングだが、ハイスピードでのナビゲーション能力、ルートチョイスが要求される。スタート1分前にステージのお立ち台に上がり、目の前の巨大スクリーンに緊張する選手の顔がアップになり映しだされるのだった。観客はテレイン内の道上であれば自由に行き来しどこで応援しても構わない。また前日のモデルイベントのテレインの半分は、10年前の地図が与えられるものの、本番のテレインをそのまま使えて練習することができた。こういったことは今までの世界選手権の常識を覆しており(今回は全てがこんな感じ)、しかしこれが今後世界の流れになっていくのだから、選手も関係者も臨機応変に対応していかなければならないだろう。話を戻し、大声援の中でのスタートはレース前の緊張から解き離れた開放感と、レース中はできる限りのスピードで追い込んで走り集中しながらマップコンタクトをしていく気持ちよさを感じていた。コースは簡単だが、唯一テクニカルとされる1-2レグで致命的なミスをしてしまった。しかし45人中40位とはいえ世界選手権で個人順位がついたことには一応満足をしたい。スプリントはゲーム感覚に近かった10分そこそこのオリエンテーリングだが、それでも世界チャンピオンを決める種目だ。2003年も採用されている。今回、国内では全く練習をしていなかった。今後スプリントを意識した練習をしたり、大会を開いたり、フィジカル面だけでもトップと差があるのだから、それに関してのトレーニングの強化をしていくべきだ。

<リレー>

毎回最終日に行われていたリレーは変則日程のため3日目にやってきた。リレーをリレーというゲームとして捉えるには日本女子には厳しい状況で、争えると思われた国を含め4人そろえていないところもあり(アイルランド、スペイン、レベルは上だがN.Zなど)、頑張ってもアメリカ、カナダだ。こうなってくると個人それぞれレースをして、トップ対比何パーセントで走れるか、そういった目標に変えざろうえない。1走金並からタッチを受けるとすでに1人旅。1箇所大きなミスは3分ほどあいまいなルートプランから起こった。全体的にはリズムに乗って手続きをしていたが、体が重く全くキレのないレースになってしまった。明らかに疲れていた。日本女子は19位、今までで最高位だが、イベントの関係上ウムスタートとなってしまったのは残念だった。リレーは選手それぞれレベルアップをしていいレースをしていかなないとなかなかチームとして戦うことができない。この点でも各選手技術面、フィジカル面での向上が必要だ。

<ショート予選>

リレーの走りからきちんとプランニングの続きをしてやれば、予選通過の目標は遠くないと感じていた。2番はいやらしいレグで、ここで現在の課題であるプランニング、特に中間チェックポイントへのつなぎのプランニングが大雑把すぎるということがでてしまい、完全に現在地ロストしてしまった、8分のミス。アタックをしないおしても、ショートという次から次へと人の流れのある中、予選通過のため1分1秒を争うレースという気持ちの中で冷静になることができなかった。この時点で予選通過はないだろうと感じたが、あきらめずその後気持ち

を入れ替えレースに集中しなおした。ラップをみると、2番のミスを除いては予選通過のラインでオリエンテーリングをしている。あのペースで走りリズムに乗って手続きをしてオリエンテーリングをしていけばいいのだ、ということを感じたことは嬉しいし今後役に立てたい。

今回の世界選手権はたった半年間だが準備をした分タイムも結果も素直に出ているように思う。目標は達成できなかったが、ショートでは通過の可能性と手ごたえを感じた。他の女子選手もそうだろう。しかしミスをして予選を通過できるような準備を今後していかなければ、1ランク上のレベルで国内でも戦っていかなければ、当然ながらこの目標は厳しい。現状ではミスをせず追い込んで走っていいレースをして初めて予選通過ができるかどうか、という女子のレベルだけに工夫してやっていくことは山のようにある。今あるスピードを生かせるような技術を持つことは大前提としてさらにフィジカル面を強化しその上でオリエンテーリングをしていくこと。各自それぞれの課題はあるが方向性としては同じように思える。

最後に、多くの方々の応援、賛助を頂き本当に感謝をしております。結果を残すことは残念ながらできませんでしたが、今回参加して感じたこと、これからのチームに必要なこと、やらなければならないこと、2005年日本チームの成功のためにも、どんな形にせよ少しでも関わらなくてはと思います。それが代表として走った選手としての責任と応援して下さった多くの方々へのお返しだと考えています。

金並 由香

ノルウェー、スコットランドに続いて3回目の世界選手権であったフィンランドの夏が終わりました。初めての大会の際はレースをこなすことに精一杯で、2度目は今思ってももったいないくらい、漠然と参加してしまいました。今回は結果としてはじめて先に続けられる走りのできた回となったように感じています。

7月20日に現地に向かい、翌21日からトレーニング。今思えば集中に欠けていたからなのでしょう、とにかく落ち着きの無い冴えない走りばかりの日々でした。1レグに50分かかった日もありました。今回の大会以前に決まったメンバーの中からさらに選ばれてレースを走るという環境に居たことが無かったことも妙な焦りの原因だったと思います。ある意味今までやわな環境にしか居たことが無かったわけです。これも今回得た貴重な経験です。より精神的にもタフにならないと勝負で強さを発揮できないと思いました。

結果として3レースすべて走らせてもらい、その中最後の最後のショートの予選で評価できる走りのできたことが今回の最大の収穫です。

「ミスを押さえ、キロ10分レースをして日本に帰る」これがレース前に決めていた目標です。フィンランドで何も得ないままで日本に帰りたくない。日頃の走りや地図との対応の出来をみても、自分の目標は決して実現できないレベルのものではありませんでした。むしろ挑戦とは言い難いレベル。でも、それをこの場ですることに意義があるのだとレース前は自分でも肩の力も抜けいい感じでした。

実際は1番でもたつき2分後の選手に追いつかれたりもしたのですが、世界の壁に手が届きそうな実感をやっとなつかめたような感じです。そしてこの感覚は私だけでなく今回の代表選手すべて、国内で一緒に走っている他の選手にも共通することだと思っています。もっともっと国内でもシビアに競い合い、お互いオリエンテーリングに食らいついて、傍観者でいるのでは

なく世界レベルに食い込もうではありませんか。

また、競技に集中し、今回の走りのできたのもまわりの多くの方々からの有形無形の支援があったおかげです。本当にありがとうございます。ありがとうございました。支援にレースの結果で報いるべく、まだまだ競技者として頑張ります。

落合 志保子

今回、現地入りを6月上旬にしその後はフィンランドで準備してきました。早めに現地に入ろうと決めた理由は、1年前の夏フィンランドのワールドカップに出場しててんぱんにやっつけられたことで、フィンランドは手強いという感触を得たから、また自分自身の中でもひとつ区切りをつけるつもりだったので、悔いのない準備がしたかったからです。6月3日にタンペレ入りし3日間トレーニングをしたあと、北欧選手権に出場、そしてそれ以降は基本的に一人で生活しながら周りの助けを借りてトレーニングをしました。北欧選手権ではクラシックトップから180パーセント、ショートですら170パーセントという散々な結果でまさに1年前の二の舞。まずルートプランをすること、現地と地図を対応させることで1ヶ月を費やしてしまいました。そして対応はばっちりできるようになって、ようやくスピードをあげて走れるようになったところでチームと合流しました。ただ、一つ自分では意識していなかったのですがずっと10,000分の1のスケールでオリエンテーリングをしていたので、チームとのトレキャン中に15,000分の1に地図が変わった時点で、対応できなくなりリズムも崩れ、結局最後まで自分のオリエンテーリングを立て直せませんでした。その辺りはもっと自分で調整できたと思うと残念です。ファイナル出場という目標を掲げてやってきたのですが、結果としてそれを果たすことはできませんでした。でもフィンランドで走れば走るほどその壁の高さを痛感していた私にとっては、確かに残念な結果であるけれども、確実にスコットランドよりも成長している自分に対しては満足しています。そして2ヶ月は決して無駄ではなかったと胸を張って言えます。次もいろいろなことにチャレンジして速くなっていきたいです。ご支援本当にありがとうございました。また私事ではありますが家族にも本当に感謝しています。またよろしく願いいたします。

中村 正子

初めての世界選手権への挑戦が終わりました。様々な方々に、様々な形で多大なるご支援を頂きました。この場をお借りして感謝申し上げます。皆様のご期待にそえるよう努力したつもりですが、出場したクラシック、ショートともに予選落ちという結果に終わってしまいました。

世界選手権へ行きたいと思ってから初出場まで、実に5年もの年月がかかってしまいました。その間OLから遠ざかっていた時期もありました。今度こそ本気で世界選手権を目指してみよう、と決心し再びトレーニングを開始してから1年半、OLの感触を取り戻すこと、そして国内で結果を出し代表選手になることを目標にしてきました。今にして思うと、代表選手になった時点で、ある程度満足してしまった感もあったかもしれません。しかし、代表選手としての自覚と責任感は常に意識し続け、遠征まで充実したトレーニングを積むことが出来ました。

フィンランド入りしてすぐにトレキャンが始まりました。昨年フィンランドで開催されたワールドカップに出場したので、トレインの様子は大体想像出来ました。ただ、そのワールドカッ

プで見事に玉砕してしまったので、今回トレインに適応してちゃんとOLが出来るかどうか非常に不安がありました。しかし、トレインへの適応は思っていたよりもすんなり出来、課題を意識して明確なプランニングが出来れば気持ち良くOLが出来る、本番もいける、という感触をつかむことが出来ました。

クラシック予選、ずっと目標にしてきたレース。スタート前は過剰な緊張もなく、多少体は重く感じるもののいつも通りスタートすることが出来ました。チャレンジャー精神で果敢に攻めるつもりだったのですが、トレキャンから蓄積してきた疲労がピークに達していたこともあり、ずっと体は重くずっしりと鉛を背負っているかのようなようでした。当然OLに集中し切れず、大ミスをして沈んでいきました。OL以前のコンディショニングでの失敗、非常に情けなく思います。

このレースの結果、リレーメンバーから外れることが決まりました。代表としてリレーを走れないことは非常に残念でしたが、同時にショート予選を走れることは決まったので、残るショートに集中出来るという意味ではほっとした面もありました。

ショート予選。今回は体調管理をしっかりし、レース中も思い切り良く走れました。しかし、明確なプランニングを怠ってしまった中盤で大ミスを犯してしまい、私の世界選手権への挑戦は終わってしまいました。

クラシック決勝、リレー、ショート決勝を観戦しながら、当たり前ですが世界レベルを肌で感じました。同じ舞台で戦ってみたい、でも私はどこまでやれるの？どうしたいの？という問いに、まだ明確な答えは出せていません。でも、このままで終わりたいくはないです。2005年愛知での世界選手権のためにも、もう一段も二段もレベルアップして再び世界に挑みたいと思っています。

塩田 美佐

初めて世界選手権に参加してきました。そして、今回私は、早めに遠征を開始しました。これは、私にとってかなりプラスになったと思っています。数多くトレインに入ることで、日本とは違う環境の中、自分にわかるものがある程度明確になり、使えるようになって世界選手権1週間前位には自信を持って前に進めるようになりました。

トレーニングでは、自分にとって簡単なプランをたてて、実行する。直進する時は目指すもの・でてくるものをしっかり確認して動く。地形が細かいところでは一度わからなくなると大きなミスにつながるの、慎重にゆっくり地図と現地をみて進み、アタックポイントをしっかり決める。ということを中心に行っていました。

世界選手権本番は、クラシカルとリレーに出場しました。

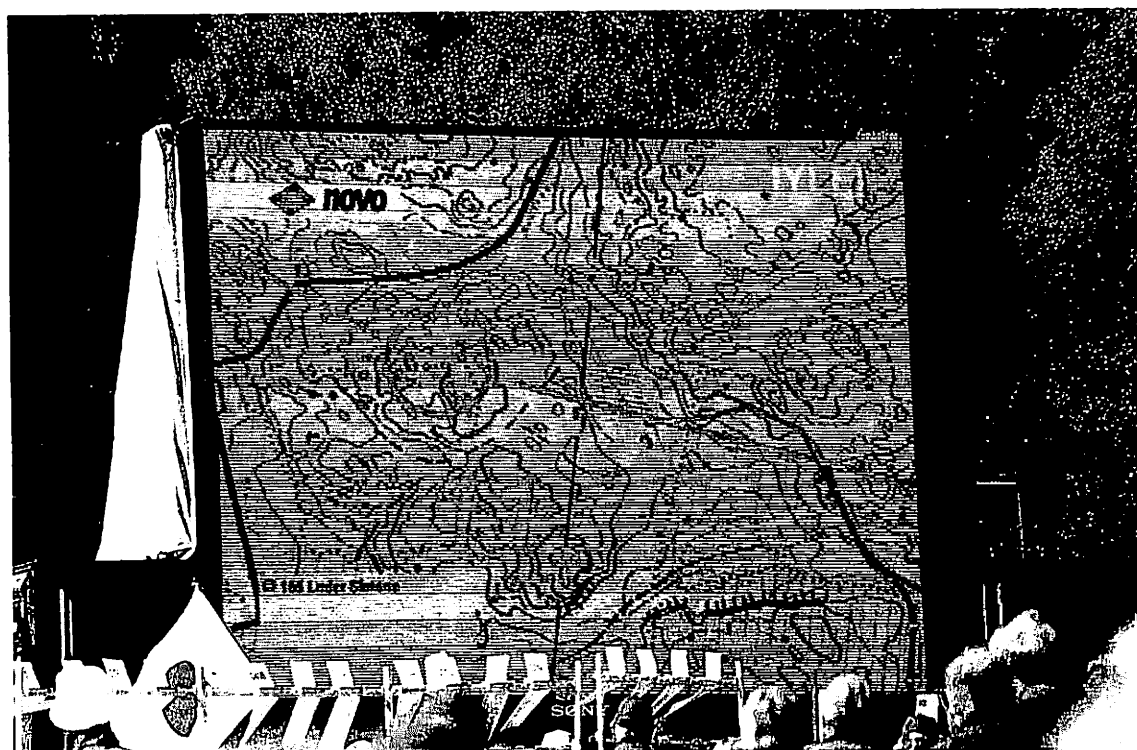
クラシカルは1:15,000でしたが、これは非常にみにくく感じ、1:10,000だと「とらえられる」と思うものが1:15,000だとそう思えず本番直前まで苦労しました。スタート前はとにかく「大丈夫」と言い聞かせていました。レースは1箇所ルートプランに迷っている時、外人選手が近くにいて私が選択しなかったルートの方へ脱出していくのが目に入り、自分のプランで進もうと決めたにもかかわらず、外人選手の動きがどうしても気になり、自分が行っていることに集中できず（つられていた部分がある）不安が生じていたうえに、アタックを適当に行ってしまう、さらにミス時間を広げてしまいました。しかし、その他の部分は調子よくプランも無理なく立て、イメージどおりの風景が出てきたので安心して自信を持ってオリエンテーリン

グができました。そのため、1箇所を除けば（オリエンテーリングは総合した結果が全てなのですが）、いいレースができたので、世界と自分のタイム差というのを知ることができるレースではありました。そして、目標として掲げた予選通過というのは非常に厳しいものでした。

次に、リレーですが、リレーは4走でした。リレーの1/10000では、トレキャン中現地と対応できていて、大きくミスをする事はなかったのですが、すごく楽しみでした。しかし、実際レースをしてみると途中リロケートに失敗し自信を無くし不安でいっぱいになり、前に進めなくなり、きちんと進んでいてもなんか安心できず、ほんの数ミリのアタックでさえもうまくいけたという実感が持てない状態で最後までオリエンテーリングをしていました。チームの人にはもちろんのこと、多くの人にとっても悪いことをしたと思っています。ゴールでは各国の人が盛大な応援をしてくれてうれしかったのは事実ですが、寂しさ？情けなさ？でいっぱいでした。

今回の世界選手権で、世界と自分・世界と日本の差を少なからず認識できたことは大きな収穫になりました。そして、2、3人でしたが山の中で世界のオリエンティアのオリエンテーリングを見ることができたこともよい収穫になりました。今回の経験をもとにこれからどうしていくかの計画を立て向上をはかっていこうと思います。

ご支援、応援どうもありがとうございました。



クラシックディスタンス決勝会場の大型スクリーンに映し出される地図とルート
スクリーンには、GPSトラッキングによって会場に伝えられたルートも表示されている

村越 真 - GPS と映像で、見せる WOC を演出

今回の世界選手権のテーマは「オリエンテーリングを見ごたえのあるスポーツに」である。そのために GPS によって選手の居場所をリアルタイムで捉え、会場にいる人々にも随時情報として提供する、テレインの中のビデオ映像を会場で流す、レース展開によって変わる順位を瞬時に電光掲示板で表示するなど、様々な試みが為された。

コースや会場レイアウトも見ごたえのあるものにするための工夫がなされていた。スタートはすべての決勝とリレーでフィニッシュと同一の場所に設定された。選手は観客の歓声の中、森に消え、そして声援に迎えられフィニッシュに帰ってくるのである。クラシックのコースでは、後半に伐採地を通過する、むやみにアボガリオ（肌岩山）の上に登るなど、テレビカメラでの選手の捕捉を容易にするためのコースの妥協が随所になされていた。

見ごたえのあるスポーツにするためのもっとも成功した努力が、会場に設置された巨大スクリーンである。このスクリーンにスタート台に緊張の面持ちで立つ選手の様子、森の中での神業のようなナビゲーションやミス、そして優勝決定の喜びや一時はトップに立ちながら、後続の選手に抜かれたときの無念の表情などが惜しげもなく観客の目を楽しませた。映像があまりに優れていたのも、多くの観客は自分たちの後ろを実際に走る選手ではなく、スクリーンに声援を送っていたほどだった。

一部のコースの妥協を除けば、見せるための演出は選手にとってもおおむね好評であった。私自身の個人的な経験でも、プレススタートし、会場が近づくにつれ、観客の声援・興奮が伝わってくると、こちらまで興奮してくる。スタート台に立って、左正面の巨大なスクリーンに自分の姿が大写しになっている姿を見ると、鳥肌が立つほどだ。こういう舞台の中を走れることだけでも予選を通過する価値がある。

もちろん、観客やメディアに見やすいレースが必ずしもチームにとって望ましいものではない。成績表はチームよりもプレスに正確なものが配布される、予選の会場でもボーダーにいる選手に関する情報がなかなか流れない、リレーでは下位チームが上位や周囲のチームとどれだけ離れているかという情報が皆無に近かった。選手やチームにとって何が重要かという視点は欠落していた。

メディア受けを狙うということは、上位を狙える限られた選手に篤い大会運営がなされることでもある。またこのような大会運営は、オリエンテーリングの社会的構造を根本から変化させる大きなモメントとなるだろう。それが本当にこのスポーツの将来にとっていいことかどうかは、まだまだ議論の余地があるだろう。いい面、悪い面いずれにしても、このタンペレの世界選手権が一時代を区切る世界選手権となったことは間違いない。

加賀屋 博文

4 回目の世界選手権に参加してきました。前回のスコットランドのクラシック予選で1箇所15分という大きなミスをした悔しさから2年。世界選手権の借りは世界選手権で返すと念じ、達成可能な目標としてクラシック決勝を走るための準備を心がけてきました。常にスピードを意識して走り続け、最近の国内でのレース結果からいって、自分がいままで以上に速く走れる手ごたえをつかんでフィンランド入りしました。

結果としては、目標としていたクラシック予選への出場はかなわず、リレーのみの出場になってしまいました。タンペレのテレインは難度が高いとはいえ、スピードをきちんと切り替えて

きれば走りきれると予想していたのですが、実際に走ってみると、明確にチェックできる特徴物が少なく、ちょっとスピードを上げるとたちまち現在位置が不安になってしまうという状態になっていたのです。テストレースでよい結果を残せず、目標にしていたクラシック予選のメンバーからははずれました。それでも毎日トレインに入るにつれ走るリズムをつかめるようになり、リレーではそれなりの自信を持って臨んだつもりでした。

リレーはスタート時点で、直後に4走のトップ集団が追ってくるという展開となり、1位のフィンランドは見なかったものの、その後の2~6位のアンカー全てを見る（抜かれる）体験をしました。そこで感じたのは、いまさらながらですが、オリエンテーリングのスピードが違いすぎる、ということです。自分はトップ33分のところを46分。後半疲れで大きなミスをしたものの、42分が出れば良いレースですが、それでは目標としていた15位のタイムにはぜんぜん足りないのです。自分がスピードを抑えて確実に走っているところを、彼らはがんがんにスピードを出して、しかもミスすることなく進んでいくのです。

国内では少々のミスにも構わず常にスピードを優先して走っていました。フィンランドでも同じ意識で臨んだけれど、大きなミスを繰り返し、その結果スピードを抑えた確実なオリエンテーリングにシフトしていきました。しかし、それでは通用しない、これでは日本が2005年に向けて今の位置から入賞が狙えるレベルまでステップアップすることはできない、と思われさせられました。スピードを意識して走ることは間違っていなかったのですが、それを支える技術がまだまだ不足していたのです。

リレーだけではなく他の種目でも男子にとっては厳しい結果に終わりました。支援して下さった皆さんに応える結果が出せなかったのは本当に悔しく、自分の力不足を痛感します。世界のレベルがあがっている状況では、これから先に挑む道はかなり厳しくなります。選手がこれまで以上の努力を積み重ねなければならないのは当然ですが、選手を支援する体制もこれまで以上に必要とされてきます。今回の支援に感謝するとともに、これからもチームへの支援、激励をお願いいたします。

鹿島田 浩二 - WOC2001 フィンランドを終えて

自分にとって6回目の世界選手権が終わった。数字で見れば、出場した3つのレースはどれもあまり良い結果ではなかった。

一つ一つを見てみる。クラシックは、巡航スピード124でミスが4.9%、村越さんには及ばないがミスはかなり少なく、自分としてはトレキャンから感じていたテクニカル面での自信がそのままつながる非常にいいレースであった。ラストコントロールを通過したときはこれで落ちても悔いはないと思った。ところが、結果は今まで以上にボードから遠く、4分近い差の38位であった。これはフィジカル面で自分の感じる以上に走れてなかったこと。ミスこそなかったものの、アタックでのもたつきや、ラフ区間での動きの鈍さといった巡航スピード自体が低下するテクニカルな問題点を、大きなミスを防ぐという観点から知らず知らずのうちに許容していたことだ。そのことは巡航スピード124という結果も示している。

一方リレーはどうであったか。前半は細かいミスはあるもののパブリックコントロールまでは、今までのリレーと比べても許容範囲のレースであった。ところがトップとの差は今まで以上に開いており、周りを走る国のレベルも毎年と比べるとやや見劣りがした。自分としては及第点のレースをしていたつもりでもそのパフォーマンスは今ひとつであった。後半、コ

ンパスの損傷により大ミスをしてチームにとっては非常に残念な結果となってしまった。この点については、貴重なリレーという競い合う場の醍醐味を損なってしまったことについてチームメイトには申し訳ないと思う。今後は自分はもちろん、他のメンバーにもサブコンパス（小さくてもいい北を指せば充分）を持っていくことを薦める。

ショートでは気持ちの切替はあまりうまくいかなかったのだろう。スタート直後の非常に用心しなければならない1、2で大きなミスをし、WOC 史上もっとも不本意なレースとなってしまった。

さて、今回の結果を客観的に見てしまうと、なかなか明るい目標を2003年に向けてあげることにはつらくなっていく。回数を重ねてくると、そのWOCの自分にとっての反省点、意義などを評価するにしてもどうしてもマンネリ化するし、目標と結果の乖離に悲観的になりがちだ。

今の自分にどれだけ予選通過の可能性はあるだろうか。また今後のトレーニングでその可能性をどこまで広げられるのだろうか。もちろんその答えはわからない。しかしただ一ついえるのは、2年後の自分に期待できないと考える理由はどこにもない（僕は、この積極的否定ともいべき村越さん得意の考え方が大好きだ）。

年齢的に考えても、大事なWOCの枠を、無意味に若者から奪うことはしたくない。しかし自分に可能性が見出せるだけの準備と成長が出来たとすれば胸を張って挑戦しよう。可能性のある限りそれを追求するのは競技者の当然の心理だ。

ペター・トーレセンの言葉に「チャンピオンは失敗の連続だ」というのがある。また偉大なオリエンティアであるヨルゲン・モルテンソンが獲得した2つの金と2つの銀は、彼の11回のWOC出場経験のうち最後の4回で取ったものである。自分に後はない。しかし失敗を恐れずにまずは次の2年を過ごしたい。

松澤 俊行

世界選手権への出場は前回に続いて2回目でした。初出場のスコットランドでクラシック予選（2組に分かれ、各組30名が予選通過）39位、ショート予選（4組に分かれ、各組15名が予選通過）20位であり、今回の「個人レースで予選通過・決勝進出」という目標設定は極めて妥当だったと思います。この2年間、国内のレースで自身の成長を感じていただけでなく、国際大会の累積経験も増えました。加えてチーム内の競争も激化しており、その中で個人戦の出場選手に選ばれれば、自信を持ってレースを進められるであろうと思い描いていました。

到着直後、フィンランドのテレインにも割とすんなり対応でき、自分への期待が膨らみました。ところが、現実には厳しいものでした。油断したという自覚はなかったのですが、どこかに浮ついた部分があったのかもしれない。

現地合宿が進み、レースが近づいて来ても、仕上がっていく感触が得られませんでした。チーム内で同一コースによりタイム比較をする練習でも、小手先の技術がなんとか通用するように感じられはするが、無難にまわってタイムをまとめることだけに一苦勞するといった按配でした。

それでも幸い、最も得意という意識のあるクラシックへの出場が決まりました。もう、あれこれ考えても仕方ありません。かといって、何も考えが浮かばないということもありません。それならばと、心理状態の変化に無理にあらがおうとせず、その変化の観察を楽しむつもりで残りの日々を過ごすことにしました。実際、クラシック予選直前は穏やかな気持ちでスター

トを待つことができました。

けれども、いささか心理の観察にエネルギーを割き過ぎてしまったようで、技術がお留守となり、クラシックでの走りは不本意なものになってしまいました。ミスを重ね、結果、組内51位。今考えればミスがなければ、というものでもなく、そもそも地力が足りなかったのでしょうか。ショートでは自分としても領けるようなミスを抑える走りを遂行しつつも組内25位。2年前にほの見えた決勝の舞台がまた遠ざかったように感じられました。

「自分としてはなかなかのことをしている」という2年間ずっと抱いていた気持ちを今更偽りはしませんが、いかんせん世界の流れを追い切れていなかったということを痛感し、反省しています。今後一層の研究と実践を重ねなければと気を引き締めています。

最後になりましたが、代表チームを支援してくださり、レース結果に期待してくださった方に御礼申し上げます。ありがとうございました。

高橋 善徳 — 世界選手権を経験して

まず、はじめに世界選手権に出場するに当たりたくさんのからの支援、応援に対して、感謝の気持ちでいっぱいです。成績としての単純な数字では決して満足の行く結果を得ることはできませんでしたが、3週間という世界選手権前の現地での準備の成果は十分に得られたと満足しています。

私は、今回世界選手権前に3週間という長い期間を現地で調整として活用してきました。まずはじめの5日間はフィンランドのテラインに慣れるという点で現地のトレーニングテラインに入りトレーニングを積みました。次の7日間はFin5という現地での5日間大会に出場しレースと、その反省を通じてフィンランドのテラインへの苦手意識を減らしました。そして、次の9日間で日本のナショナルチームと合流し最終的な調整を行いました。現地でのトレーニングの成果もあってか、日本では近づくことさえ難しかった鹿島田、加賀屋、松澤選手に対して引けを取らない状態に仕上がっていました。

世界選手権の本戦では初出場でありながら堂々としたレースができたと思います。クラシック予選では前半で大きなミスをするものの、それ以外は『完璧だった』と言った鹿島田選手とほぼ同じレース内容でした。(巡航スピード、ミス率共に同じ程度)リレーでも、ミス率5~6% (自分の手ごたえ)のレースができたと思います。特にリレーでは、準備してきたものは発揮できたのではないかと考えています。ただ、それ以上に壁は厚いものでした。これからどうOLを作っていかなければならないかを考えさせられる世界選手権でした。

日本チームの雰囲気は想像していた以上にリラックスして驚きました。世界選手権出場の経験の多い選手、少ない選手、初出場の選手とその経験には幅がありましたがそれぞれがそれぞれに次につながる何かをつかんだのではないかと思います。

この世界選手権に出場して私はオリエンテーリングが以前にもまして好きになったし、もっとオリエンテーリングを楽しみたいと思うようになりました。2003年、2004年、2005年と当然参加する意思はあります。今回の経験が決して無駄にならないよう、地に足をつけてがんばっていきたいと思います。

安井 真人

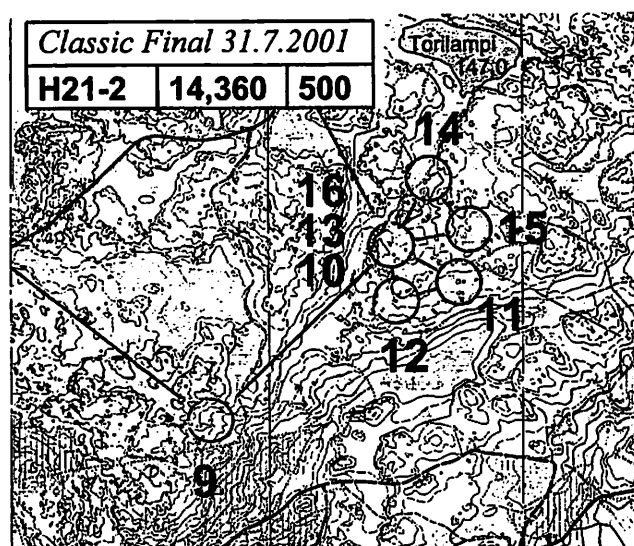
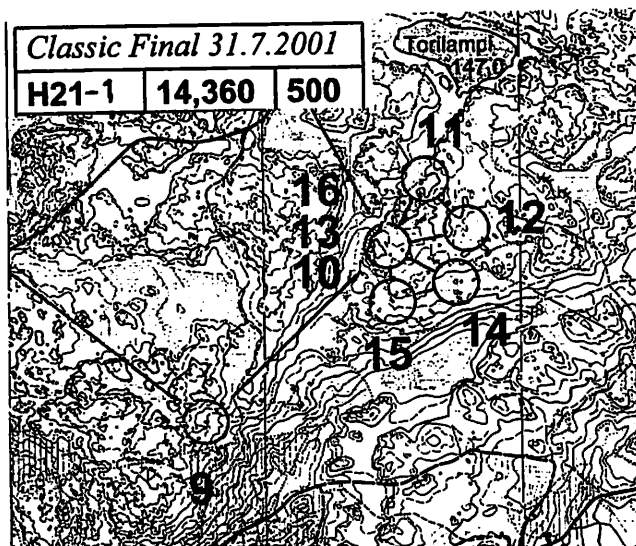
フィンランドで開催された世界選手権に参加して、様々な経験をし、今後のオリエンテーリングに対する取り組み方を考えさせられました。

4月から就職し、慣れない生活の中でトレーニングを続けることは簡単なことではありませんでした。しかし、他の代表選手のお話を聞いたり、オリエンテーリングを見ることで刺激を受け、モチベーションは高いまま、充分とは言えないまでも、納得のいくトレーニングができました。

本戦では今大会が初めての種目となるスプリントと、ショートを走りました。スプリントは他の種目とは異質のものでした。距離 2.6 キロでポスト位置も難しくなく、スピードとルートチョイスが勝負を決めるため、高度な技術というよりは走力と冷静な判断力が要求される種目だと思いました。結果はトップと約 2 分差の 39 位。私のようにそれほど足の速くない選手がこの順位を取れたことを考えると、足の速い選手をエントリーすれば 10 位台も夢ではないと思います。日本代表にとって最も高順位を狙いやすい種目なのではないでしょうか。

もう一つエントリーしたショートは私が目標としてきたレースでした。フィンランドのテイインにも慣れ、体のきれもよく、序盤は順調にオリエンテーリングができたのですが、終盤 1 分程度のミスをした後、次のレッグで、焦りから 3 分のミスをしてしまいました。ミスをしたら予選通過できないという心の余裕の無さが、このような不必要なミスを生んだのだと思います。

日本選手は、体力面、技術面で外国選手に劣るということは今までも言われてきたことだと思います。もちろん、私もそれは実感しました。しかし、さらに強く感じたのは精神面での差でした。精神的に余裕が無く、追い詰められた状態でオリエンテーリングをしている。それは世界との差がよく分からないために、必要以上に劣等感を感じているからだと思います。この状態を打開するには、国際大会を多く経験し、ヨーロッパの選手たちと競い合うことによって、世界での自分の実力を見極める必要があると思いました。今回は、「2分くらいミスしても大丈夫」と思えるくらい心に余裕を持ってレースに臨めるように、対策と準備をしていきたいと思っています。



追走防止？ クラシックディスタンス男子決勝で用いられたフォーキングシステム
短い二つのループを交互に走る（10, 13, 16は3回パンチする）

藤井 範久 - ゼネラルマネージャーとして

第19回オリエンテーリング世界選手権大会が、フィンランドのタンペレ市を中心に2001年7月28日～8月4日の日程で開催されました。今回の世界選手権大会は、マスメディアへのアピールを強く意識した大会でした。会場の大型画面にはトレイン内を走る選手の姿や地図が映し出され、また同時に、それがテレビ放映されていたのです。しかもクラシック決勝では、選手は会場の中央に設置されたスタート台からスタートしていったのですが、その選手から画面に映し出される地図を見ることもできたのでした。これまでの常識から考えると、不公平だと提訴されそうな会場レイアウトですが、マスメディアや会場の観客へのアピールを優先したと考えれば、当然のことかもしれません。開会式でIOF会長のSue Harveyが、「オリエンテーリングのオリンピック種目入りを目指してマスメディアへのアピールを強めていく」と述べていたが、その実現手段がそれだったのです。

2000年夏、2005年に世界選手権大会が日本・愛知県で開催されることが決まり、2005年に向けて長期的な選手強化が不可欠になってきています。そして2000年の秋以降、それまでの世界選手権大会に比べれば充実した選手強化を行うことができた（個人的には）感じていました。

そして、今回の世界選手権大会の成績は、本報告書の最後に掲載してある通りです。日本代表チームの成績は、男子については、クラシックディスタンスで村越が決勝進出を果たしたものの、個人的に目標としていた複数名の決勝進出は達成されませんでした。また、決勝進出したのが村越であったことは、少し残念に感じています。2005年を考えた場合、今回の世界選手権大会で世代交代が目に見える形でなされなければならなかったと感じています。

一方、女子選手の成績に目を向けると、前回まではミスのないレースをしても予選通過にはほど遠いタイムだったのですが、今回はショートディスタンスでの金並の16位や田島の安定したラップタイム（大きな一つのミスを除いてだが）など、予選通過の可能性が確かなものになってきたと言えるでしょう。しかしこの可能性も、選手がどれだけ本気で強くなろうと考えているか、サポートスタッフがどれだけ本気で強くしようと考えているか、さらには、日本オリエンテーリング協会がどれだけ選手強化に本腰を入れようとしているか次第です。そして日本の全てのオリエンティアが、2005年の世界選手権大会での日本人選手の活躍をどれだけ期待しているか次第でもあります。

大会期間中に行われたIOFの臨時総会で、2003年以降は世界選手権大会が毎年開催されることが決まりました。選手にとっては、毎年の海外遠征が負担になるかも知れませんが、逆に考えれば、トレーニングや練習の成果を世界選手権大会という本番で試す機会が増えたと言えるかも知れません。その増えた機会でも、選手がより高いレベルで競い合えるように、スコードの一員として選手強化に力を入れていきたいと思えます。

最後になりましたが、今回の世界選手権大会遠征に際して賛助金をいただいた皆様、選考会運営や強化合宿でお世話になった皆様、また現地まで足を運んで応援にいただいた皆様に、チームを代表して感謝いたします。

村越 真（男子コーチ） - コーチとしての総括

世界はまだ遠い。久しぶりにそう実感した。それをとりわけ感じたのはショートの予選だった。いくつかのミスはあるものの、この難しいテレインではそれが致命傷になるとは思えない。だが、トップの結果は自分たちの予想をはるかに上回るものだった。また上位陣だけでなく、中堅国の選手もこの難しいテレインでほとんど崩れることなくタイムをまとめ、結果として、日本選手にとって予選通過は遠いものとなった。

同じことはリレーにも当てはまる。うまくまとめたつもりでも、トップと25%以上の差がついてしまう。ミスでもしようものなら30%は優に超えてしまう。かといって中堅国の多くがノルウェーの時のように容易に崩れるわけではない。私たちは、北欧の「技術的なテレイン」の走り方について、まず認識からして作り直さなければいけないようだ。そんな中で、ショートを走った安井や田島のラップは、一つの参考になるかもしれない。

私たちのようなフルタイムの社会人選手にとって、競技をめぐる環境が厳しいものになりつつあることも、今後日本チームがどう戦っていくかを考える上で重要なポイントである。2003年から毎年世界選手権が開催されるようになる。また世界選手権に出場するためには個人種目では、あらかじめ予選ラウンドやワールドカップで資格を得る必要がある。フルタイムの社会人にとって、ますます世界と伍してやっていくことには困難がきまとう。おそらく上位20位に入ることすら、通常的生活をしている限りは難しくなるだろう。

このような環境の中で、ここの強化策以前に、チームをどうグランドデザインしていくかを考えていく必要がある。おそらくパートタイムの仕事しながら、オリエンテーリングに人生のある時期を賭ける、そんな選手がいない限り、とうてい一般オリエンティアやメディアをワクワクさせるような結果を出すことはできないだろう。とはいえ、そのような選手のみでチームを構成することも現実的には難しい。チームのグランドデザインに当たっては、そういう社会的状況をも考慮する必要が出てくる。それと同時に一人一人の選手に自分の賭けるコストと、そこから見込める結果についての冷静な視点が求められるだろう。

このような状況に国際的なエリートシーンが変わっていく時、オリエンテーリング界全体でエリート集団をどうサポートするか（するのもしないのかという議論を含めて）という議論も必要だ。2005年の日本での世界選手権開催も控え、この世界選手権は様々な議論の材料を提供してくれたと思う。

山岸 倫也（女子コーチ） - オリエンテーリングがオリンピックをめざすということ

世界選手権大会を頂点とする競技オリエンテーリングの世界はいま、大きく変化しようとしている。今回の遠征では、何よりも変わろうとする意志を感じ、またその変化が生み出す不調和を実感した。オリンピック種目への採用を目標としたさまざまな変化は、私のような古い世代の人間を混乱させる。しかし、オリンピックを目指すということがどういうことなのかを思い知るには、またとない機会であった。何が変わったかという点、まず、①スプリントの採用により種目数が増えたこと、②男女の競技を別の時間枠で実施したこと、③今までは秘密とされていた競技情報がある程度公開されるようになったこと、④メディアへの情報提供を最優先したこと、⑤見えない競技を見せるためにトラッキングシステムが試みられたこと、などなどである。

①は予選と決勝をあわせると、いまや選手たちは最大で6レースをこなさなくてはならなく

なった。もちろんそれに伴って開催期間も延長せざるを得なくなり、それを避けるために世界選手権では各種目の決勝だけを行うような方向に向かいつつある。②は例えばリレーでは午前中は女子、午後から男子の競技を行うようになっており、メディアに対して男子と女子の競技を別々に訴求していくことができるような工夫である。③の情報の公開は、今大会の目玉であり、まさに価値観の変革を迫られた。競技会場には巨大なスクリーンが据え付けられ、観客向けにテレインの様子や地図、コースまでもが映し出された。今大会は、決勝はすべてスタートがゴールに隣接して設置されており、選手はお立ち台からスタートしていったが、出走前の選手が地図やコースをじっくりと見ることもできたのである。スプリント競技では、決勝前日に時間を限ってではあったが、競技者が古い地図（といっても2000年作成）をもってテレイン内に立ち入ることができた。メディアや観客に見せるためには、これまでオリエンテーリングの競技性を支えていると信じられてきた秘密性をも部分的に捨て去ることが求められるのである。メディアや観客（この場合はウェブを通じての観戦者を含む）を優先するために、例えば競技成績の提供ですらチーム向けが一番後回しにされた。

こうした変化は選手やチームに諸手を上げて歓迎されているわけではない。むしろ反発の方が強いのではないか。特にチームオフィシャルはチーム優先の判断をせざるを得ない立場にあり、メディアに開かれた競技を試みようとする運営側とは、なかなか価値観も方法論も共有できなかった。おそらく真にオリンピックを目指すためには、若くて柔軟性に富んだ選手たちよりもこうした指導者層の頭を変革する必要があるだろう。翻って私自身はどうなのか。変化を受け入れ、自らを変えていこう、変えていきたいとすることができるのか。今回の世界選手権大会の出来事にはかなりの違和感を感じたが、それはそれで面白そうな世界だと思えるくらいの柔軟性は私にも残っているようである。

加賀屋 寿理（マネージャー） — 初めての世界選手権～オフィシャルとして参加して～

今回オフィシャルの一人として選手団に同行して参りました。オフィシャルとは名ばかりで、アシスタントと言ってもかなり微力なものでした。インカレのオフィシャル経験は何度かありましたが、WOCのそれはもちろん初めてで勝手が違い、何ができるか何をすべきか模索する日々でした。

選手がレースに専念できるように、家事的な事は全部引き受けるつもりでいたのですが、現地入りしてみると選手たちは各々自立して、身の回りのこと、洗濯や食事の片付け等を自主的にやっていたされました。隙を狙う感じにできたことといえば、少し早起きして極々簡単な朝食の準備をしたことぐらいです。理想は栄養素を考慮した献立を元に調理することだったのですが、マッサージャーとしての経験も乏しく、下手なこととして体調を悪化させてはならぬと思い、選手のからだには全く手を触れませんでした。

ドーピング検査に影響の無い薬のことなど、知識不足を痛感させられました。怪我をした選手の治癒に相応しい薬の選択など、その場に及んでようやくオフィシャルのやるべきことに気付かされる始末です。

初めての経験で至らない点が多く、お役に立てられたのか疑問ですが、私にとってはいい勉強になりました。遠征前、賛助会員の皆さんへ送るカード用の宛名ラベル作成を通して日本選手の健闘をサポートして下さる方々の存在を知り、何て有り難いことだろうと感謝の気持ちで一杯になりました。この任務に就かなかつたらわからないままに終わるところでした。

選手でない私も遠征前から色々な人に励まされ、現地では選手にも気遣って頂く有様です。ありがとうございました。WOCを間近で見られ、それに加え選手たちと一緒に過ごすことができ本当に光栄に思っています。今回の経験が今後のOL生活で何らかの形で活かされ、また何らかの形でお手伝いができるとういなと思っています。



今回の世界選手権大会を象徴するシーンの一つ（リレー会場にて）
チェンジオーバーエリアで田島選手のゴールを待つ落合選手。そして大型スクリーンには、これから落合選手が走るリレーコースの地図が映し出されていた。

2001年世界選手権大会成績

©2001年7月29日

スプリント男子 (0.1秒まで計時)

1.	Jimmy Birkin	SWE	10.55,9
2.	Pasi Ikonen	FIN	11.06,1
3.	Jorgen Olsson	SWE	11.09,7
4.	Juha Peltola	FIN	11.10,1
5.	Jamie Stevenson	GBR	11.18,0
6.	Mikhail Mamleev	RUS	11.19,8
7.	Kjetil Bjorlo	NOR	11.20,7
8.	Petteri Laitinen	FIN	11.23,6
9.	Rudolf Ropek	CZE	11.27,7
10.	Marian Davidik	SVK	11.31,6
11.	Grant Bluett	AUS	11.32,2
12.	Carsten Jorgensen	DEN	11.33,1
13.	Thierry Gueorgiou	FRA	11.33,3
14.	Tore Sandvik	NOR	11.36,6
15.	Yuri Omeltchenko	UKR	11.36,8
16.	Allan Mogensen	DEN	11.37,4
17.	Thomas Buehrer	SUI	11.40,7
18.	Matthias Gilgien	SUI	11.41,5
19.	Jorgen Rostrup	NOR	11.44,5
20.	Hakan Eriksson	SWE	11.45,8
21.	Svajunas Ambrazas	LTU	11.46,6
22.	Steven Hale	GBR	11.50,4
23.	Vladimir Lucan	CZE	12.00,7
24.	Lars Hommen	GER	12.08,2
25.	Maxim Davydov	RUS	12.09,6
26.	Tihomir Salopek	CRO	12.13,9
27.	Robert Banach	POL	12.15,2
28.	Janis Ozolins	LAT	12.19,7
29.	Jonn Are Myhren	NED	12.26,2
30.	Carlo Rigoni	ITA	12.26,3
31.	Tom Herremans	BEL	12.26,9
32.	Mati Tiit	EST	12.37,5
33.	Gabor Domonyik	HUN	12.42,4
34.	Rob Jessop	NZL	12.43,8
35.	Matthias Niggli	SUI	12.47,0
36.	Jurgen Egger	AUT	12.48,7
37.	Edgaras Voveris	LTU	12.58,4
38.	Erik Aibast	EST	13.00,3
39.	安井真人	JPN	13.02,5
40.	Eric Bone	USA	13.15,4
41.	Marcus Pinker	IRL	13.38,2
42.	Martin Terry	RSA	13.45,1
43.	Teodor Dimitrov	BUL	13.56,3
44.	Dmitry Mikhalkin	BLR	14.17,7
45.	Nick Duca	CAN	14.22,3
46.	Daniel Griff	ISR	14.31,4
47.	Javier Gomez	ESP	15.13,3
48.	Valery Nalobin	KAZ	15.36,4
49.	Li Feilong	CHN	16.55,9

スプリント女子 (0.1秒まで計時)

1.	Vroni Konig-Salmi	SUI	10.54,9
2.	Johanna Asklof	FIN	11.00,5
3.	Simone Luder	SUI	11.01,9
4.	Jenny Johansson	SWE	11.05,4
5.	Reeta Kolkkala	FIN	11.09,5
6.	Marie Luce Romanens	SUI	11.19,7

7.	Hanne Staff	NOR	11.28,9
8.	Gunilla Svard	SWE	11.34,9
9.	Liisa Anttila	FIN	11.39,6
10.	Lucie Bohm	AUT	11.43,9
11.	Linda Antonsen	NOR	11.50,0
12.	Birgitte Husebye	NOR	11.52,2
13.	Sarah Rollins	GBR	11.52,4
14.	Zuzana Macuchova	CZE	11.54,9
15.	Natasha Key	AUS	11.57,7
16.	Kulli Kaljus	EST	12.00,3
17.	Karin Schmalfeld	GER	12.06,6
18.	Dorthe Skovlyst	DEN	12.07,8
19.	Hannah Wootton	GBR	12.12,9
20.	Zsuzsa Fey	ROM	12.17,8
21.	Anna Gornicka-Antonowicz	POL	12.18,2
22.	Maria Sandstrom	SWE	12.21,4
23.	Vilma Rudzenskaite	LTU	12.24,2
24.	Jana Miklusova	SVK	12.24,5
25.	Natalia Toman	RUS	12.28,6
26.	Anne K Olesen	DEN	12.37,0
27.	Mariya Spasyuk	UKR	12.40,0
28.	Marina Libo	RUS	12.54,9
29.	Anu Annus	EST	13.03,6
30.	Perrine Manissolle	FRA	13.13,4
31.	Anna Garin	ESP	13.22,4
32.	Eva Makrai	HUN	13.26,2
33.	Aija Skrastina	LAT	13.40,2
34.	Giedre Voveriene	LTU	14.07,1
35.	Sabine Rottensteiner	ITA	14.08,3
36.	Bohdana Terova	CZE	14.42,4
37.	Pavlina Brautigam	USA	15.04,2
38.	Alexandra Hott_Johansen	CAN	15.37,9
39.	Atanaska Bedeleva	BUL	15.38,9
40.	田島利佳	JPN	15.46,5
41.	Linda Verbraken	BEL	15.55,3
42.	Yalina Kornilova	KAZ	16.09,6
43.	Kathy Kitchin	RSA	16.16,8
44.	Idit Gershoni	ISR	17.19,1
45.	Faye Pinker	IRL	17.50,6

©2001年7月30日

クラシックディスタンス男子予選1組

1.	Tobias Andersson	SWE	53.18
2.	Mikhail Mamleev	RUS	54.39
3.	Janne Salmi	FIN	55.35
4.	Fredrik Lowegren	SWE	55.44
5.	Michal Jedlicka	CZE	55.46
6.	Grant Bluett	AUS	56.21
7.	Christoph Plattner	SUI	56.54
8.	Bernt Bjornsgaard	NOR	56.55
9.	Olle Karner	EST	57.15
10.	Michal Horacek	CZE	57.17
11.	Carsten Jorgensen	DEN	57.28
12.	Bjornar Valstad	NOR	57.43
13.	Mats Haldin	FIN	57.52
14.	Donatus Schnyder	SUI	58.36
15.	Tom Quayle	AUS	58.55
16.	Jamie Stevenson	GBR	58.57
17.	Robert Banach	POL	59.37
18.	Maxim Davydov	RUS	1.00.19

19.	Vyacheslav Mukhidinov	UKR	1.00.48	9.	Oystein Kristiansen	NOR	56.15
20.	Gabor Domonyik	HUN	1.01.13	10.	Carlo Rigoni	ITA	56.45
21.	Nerijus Sulcys	LTU	1.01.18	11.	Troy de_Haas	AUS	56.58
22.	Marian Davidik	SVK	1.01.38	12.	Jorgen Rostrup	NOR	56.59
23.	Troels Nielsen	DEN	1.01.51	13.	Mads Ingvarlsen	DEN	57.11
24.	Oli Johnson	GBR	1.02.30	14.	Rob Walter	AUS	57.26
25.	村越 真	JPN	1.03.12	15.	Girts Linins	LAT	57.40
26.	Oskars Zernis	LAT	1.03.16	16.	Vladimir Lucan	CZE	58.00
27.	Christian Mohn	AUT	1.03.26	17.	Denis Steinemann	SUI	58.24
28.	Jacek Nowak	POL	1.03.32	18.	Stephen Palmer	GBR	58.30
29.	JonnAre Myhren	NED	1.04.05	19.	Jozef Wallner	SVK	59.13
30.	Fabien Pasquasy	BEL	1.04.19	20.	Nikolay Dimitrov	BUL	1.00.06
-----予選通過ライン-----							
31.	Aaron Prince	NZL	1.05.45	21.	Robert Dittman	GER	1.00.08
32.	Pierpaolo Corona	ITA	1.05.47	22.	Liutauras Bilevicius	LTU	1.00.15
33.	Martins Sirmais	LAT	1.06.28	23.	Ingo Horst	GER	1.00.32
34.	Michele Tavernaro	ITA	1.06.41	24.	John Feehan	IRL	1.00.34
35.	Vidas Armalis	LTU	1.07.23	25.	Radek Novotny	CZE	1.01.10
36.	Benoit Peyvel	FRA	1.08.36	26.	Alistair Landels	NZL	1.01.28
37.	Alexandr Alexeenok	BLR	1.10.07	27.	Allan Mogensen	DEN	1.01.30
38.	Mati Tiit	EST	1.11.04	28.	Svajunas Ambrazas	LTU	1.01.51
39.	Pedro Pasion	ESP	1.11.08	29.	Girts Vegeris	LAT	1.01.53
40.	Frantisek Libant	SVK	1.11.46	30.	Janusz Porzycz	POL	1.02.15
-----予選通過ライン-----							
41.	Eric Bone	USA	1.11.49	31.	Tarvo Avaste	EST	1.02.52
42.	Colm O'Halloran	IRL	1.12.40	32.	Maciej Grabowski	POL	1.03.37
43.	Vyacheslav Zhuravlev	BLR	1.13.32	33.	Andrey Zhuravlev	BLR	1.04.23
44.	James Logue	IRL	1.13.37	34.	Richard Wren	GBR	1.04.40
45.	Martin Terry	RSA	1.14.04	35.	Nicolas Sillien	BEL	1.05.06
46.	James Scarborough	USA	1.14.06	36.	Vitaliy Gavrylenko	UKR	1.05.23
47.	Jurgen Egger	AUT	1.14.30	37.	Wolfgang Waldhausl	AUT	1.05.39
48.	Lars Hommen	GER	1.16.33	38.	鹿島田浩二	JPN	1.05.59
49.	Tihomir Salopek	CRO	1.16.53	39.	Bill Edwards	IRL	1.06.46
50.	Richard Lange	RSA	1.18.18	40.	Mihail Mihaylov	BUL	1.06.53
51.	松澤俊行	JPN	1.19.47	41.	Roman Bespalov	BLR	1.08.07
52.	Petar Delic	CRO	1.20.04	42.	Bence Sprok	HUN	1.08.36
53.	Nick Duca	CAN	1.21.06	43.	Mike Smith	CAN	1.09.11
54.	Zoltan Harkanyi	HUN	1.21.12	44.	Jason Markham	NZL	1.09.45
55.	Oleksandr Volkov	UKR	1.21.42	45.	Norbert Helminger	AUT	1.10.05
56.	Li Feilong	CHN	1.22.16	46.	Erik Aibast	EST	1.10.08
57.	Wil Smith	CAN	1.23.21	47.	Daniele Pagliari	ITA	1.10.36
58.	Mark Lawson	NZL	1.23.42	48.	Michael Fellows	CAN	1.12.14
59.	Sergey Cherniavsky	ISR	1.28.21	49.	Ferenc Levai	HUN	1.12.31
60.	Angel Rojas	ESP	1.34.36	50.	高橋善徳	JPN	1.13.12
61.	Vladimir Telnov	KAZ	1.34.44	51.	Javier Gomez	ESP	1.13.57
62.	Nikolaj Tarasov	KAZ	1.36.06	52.	Ken Walker	USA	1.14.19
63.	Ronen Shurer	ISR	1.37.29	53.	Robert Micek	SVK	1.14.43
64.	Teodor Dimitrov	BUL	1.41.31	54.	Alfonso Bustillo	ESP	1.16.29
65.	Kam Tat Wong	HKG	1.47.20	55.	Valery Nalobin	KAZ	1.16.48
66.	Dian Bonev	BUL	1.51.25	56.	Richard Gathercole	RSA	1.17.20
67.	Po Lok Chau	HKG	2.22.01	57.	Tomislav Kaniski	CRO	1.19.45
	Hugues Petit	BEL	DQ	58.	Geert Simkens	BEL	1.21.19
	Michael Thierolf	GER	DQ	59.	Edi Ocvirk	CRO	1.23.03
クラシックディスタンス男子予選2組							
1.	Mats Troeng	SWE	53.22	60.	Eddie Bergeron	USA	1.24.22
1.	Jani Lakanen	FIN	53.22	61.	Matan Naftaly	ISR	1.28.42
3.	Carl Henrik Bjorseth	NOR	54.04	62.	Nicholas Mulder	RSA	1.29.25
4.	Valentin Novikov	RUS	54.06	63.	Mark Heikoop	NED	1.30.32
5.	Alexei Pavilaynen	RUS	54.21	64.	Gerrit van_de_Riet	NED	1.31.52
6.	Thomas Buehrer	SUI	54.51	65.	Kwok Keung Yeung	HKG	1.43.49
7.	Jarkko Huovila	FIN	55.11	66.	Daniel Griff	ISR	1.44.27
8.	Thomas Asp	SWE	55.32	67.	Wing Hang Lau	HKG	2.15.44
					Andriy Andreyev	UKR	DQ

クラシックディスタンス女子予選1組

1.	Yvette Baker	GBR	42.58
2.	Vroni Konig-Salmi	SUI	43.00
3.	Birgitte Husebye	NOR	43.07
4.	Anette Granstedt	SWE	43.15
5.	Katarina Allberg	SWE	44.26
6.	Heather Monro	GBR	44.46
7.	Hanne Staff	NOR	44.54
8.	Barbara Baczek	POL	45.05
9.	Liisa Anttila	FIN	45.53
10.	Sabrina Meister	SUI	46.15
11.	Kirsi Bostrom	FIN	47.11
12.	Helene Hausner	DEN	47.54
13.	Tina Olm-Junegard	EST	47.56
14.	Zsuzsa Fey	ROM	48.22
15.	Eva Jurenikova	CZE	48.24
16.	Kulli Kaljus	EST	48.48
17.	Giedre Voveriene	LTU	49.52
18.	Anke Xylander	GER	50.27
19.	Inga Dambe	LAT	51.51
20.	Jo Allison	AUS	52.10
21.	Frauke Schmitt-Gran	GER	52.15
22.	Laura Scaravonati	ITA	53.09
23.	Ieva Susta	LAT	53.23
24.	Elisabeth Hohenwarter	AUT	53.25
25.	Kathryn Ewels	AUS	53.44
26.	Nina Vinnytska	UKR	53.48
27.	Yvonne Fjordside	DEN	54.01
28.	Laure Coupat	FRA	54.15
29.	Vendula Klechova	CZE	54.47
30.	Vilma Rudzenskaite	LTU	54.54

----予選通過ライン----

31.	Youlia Siedina	RUS	55.44
32.	Encarna Maturana	ESP	56.21
32.	Jenni Adams	NZL	56.21
34.	Martina Rakayova	SVK	56.28
35.	Alexandra Hott_Johansen	CAN	58.30
36.	Nataliya Potopalska	UKR	59.45
37.	Christine Muller	AUT	1.00.11
38.	Perrine Manissolle	FRA	1.00.25
39.	Sabine Rottensteiner	ITA	1.01.07
40.	Cherie Mahoney	CAN	1.01.47
41.	Marina Libo	RUS	1.03.59
42.	Eva Makrai	HUN	1.06.21
43.	Jana Slamova	SVK	1.10.49
44.	Atanaska Bedeleva	BUL	1.11.06
45.	Peggy Dickison	USA	1.13.04
46.	金並由香	JPN	1.14.47
47.	Ana Amigo	ESP	1.14.56
48.	Eszter Zsebehazy	HUN	1.16.20
49.	Yalina Kornilova	KAZ	1.17.40
50.	Eileen Breseman	USA	1.20.09
51.	中村正子	JPN	1.20.11
52.	Idit Gershoni	ISR	1.22.50
53.	Eileen Loughman	IRL	1.26.42
54.	HiuYin Lo	HKG	1.27.25

クラシックディスタンス女子予選2組

1.	Emma Engstrand	SWE	41.23
2.	Reeta Kolkkala	FIN	41.26
3.	Simone Luder	SUI	43.05

4.	Karin Schmalfeld	GER	43.55
5.	Johanna Asklof	FIN	44.03
6.	Elisabeth Ingvaldsen	NOR	44.28
7.	Marika Mikkola	FIN	45.01
8.	Tatiana Pereliaeva	RUS	45.18
9.	Cecilia Nilsson	SWE	45.27
9.	Anna Garin	ESP	45.27
11.	Karina Nordrum	NOR	45.28
12.	Lucie Bohm	AUT	46.15
13.	Juliette Soulard	FRA	46.49
14.	Brigitte Wolf	SUI	46.53
15.	Maret Vaher	EST	47.50
16.	Natalia Toman	RUS	48.30
17.	Jenny James	GBR	48.37
18.	Zdenka Stara	CZE	49.00
19.	Elo Saue	EST	49.05
20.	Anna Gornicka-Antonowicz	POL	49.11
21.	Katalin Olah	HUN	49.14
22.	Renate Fauner	ITA	49.31
23.	Natasha Key	AUS	49.48
24.	Tracy Bluett	AUS	50.17
25.	Jenny Whitehead	GBR	50.38
26.	Zuzana Macuchova	CZE	51.05
27.	Maria M Hoyer	DEN	51.15
28.	Tania Robinson	NZL	51.28
29.	Jolanta Razaitiene	LTU	51.29
30.	Katarina Libantova	SVK	54.23

----予選通過ライン----

31.	Ieva Sargautyte	LTU	54.59
32.	Mariya Spasyuk	UKR	55.46
33.	Silvia Bertazzo	ITA	56.12
34.	Rachel Smith	NZL	56.47
35.	Katrin Renger	GER	56.50
36.	Zsuzsanna Farkas	HUN	57.08
37.	Ulrike Hartinger	AUT	57.40
38.	Kristin Hall	USA	57.46
39.	Agnese Uzule	LAT	1.00.04
40.	Iryna Kupriyanova	UKR	1.02.36
41.	Jana Miklusova	SVK	1.03.35
42.	Aija Klempere	LAT	1.05.15
43.	Inna Faingold	ISR	1.05.35
44.	Toni O'Donovan	IRL	1.08.07
45.	Faye Pinker	IRL	1.08.35
46.	落合志保子	JPN	1.08.55
47.	Karen Williams	USA	1.09.18
48.	Pam James	CAN	1.10.40
49.	塩田美佐	JPN	1.16.35
50.	Lumi Duca	CAN	1.21.00
51.	Alla Arhipova	KAZ	1.22.37
52.	Linda Verbraken	BEL	1.34.27
53.	Kathy Kitchin	RSA	1.39.20
	Dorthe Skovlyst	DEN	DQ

©2001年7月31日

クラシックディスタンス男子決勝

1.	Jorgen Rostrup	NOR	1.29.43
2.	Jani Lakanen	FIN	1.30.17
3.	Carl Henrik Bjorseth	NOR	1.31.58
4.	Bjornar Valstad	NOR	1.32.52
5.	Fredrik Lowegren	SWE	1.33.18

6.	Janne Salmi	FIN	1.33.50	7.	Liisa Anttila	FIN	1.17.28
7.	Valentin Novikov	RUS	1.33.59	8.	Katarina Allberg	SWE	1.18.18
8.	Thomas Buehrer	SUI	1.34.13	9.	Cecilia Nilsson	SWE	1.18.30
9.	Mats Haldin	FIN	1.34.48	10.	Vroni Konig-Salmi	SUI	1.20.14
10.	Jarkko Huovila	FIN	1.35.23	11.	Yvette Baker	GBR	1.20.57
11.	Bernt Bjornsgaard	NOR	1.36.10	12.	Sabrina Meister	SUI	1.21.40
12.	Oystein Kristiansen	NOR	1.37.05	13.	Karin Schmalfeld	GER	1.21.59
13.	Robert Banach	POL	1.37.22	14.	Birgitte Husebye	NOR	1.22.12
14.	Alexei Pavilaynen	RUS	1.37.45	15.	Heather Monro	GBR	1.22.39
15.	Christoph Plattner	SUI	1.38.18	16.	Elisabeth Ingvaldsen	NOR	1.22.50
16.	Donatus Schnyder	SUI	1.39.23	17.	Karina Nordrum	NOR	1.23.20
17.	Grant Bluett	AUS	1.39.25	18.	Katalin Olah	HUN	1.24.03
18.	Stephen Palmer	GBR	1.39.29	18.	Kirsi Bostrom	FIN	1.24.03
19.	Thomas Asp	SWE	1.39.49	20.	Tatiana Pereliaeva	RUS	1.24.27
20.	Troy de_Haas	AUS	1.39.51	21.	Emma Engstrand	SWE	1.24.49
21.	Olle Karner	EST	1.39.55	22.	Barbara Baczek	POL	1.25.29
22.	Michal Jedlicka	CZE	1.40.15	23.	Brigitte Wolf	SUI	1.25.39
23.	Michal Horacek	CZE	1.40.27	24.	Eva Jurenikova	CZE	1.26.35
24.	Maxim Davydov	RUS	1.41.20	25.	Helene Hausner	DEN	1.28.33
25.	Denis Steinemann	SUI	1.41.56	26.	Anna Gornicka-Antonowicz	POL	1.28.50
26.	Tom Quayle	AUS	1.42.47	27.	Renate Fauner	ITA	1.28.51
27.	Mats Troeng	SWE	1.42.48	28.	Maret Vaher	EST	1.28.58
28.	Mikhail Mamleev	RUS	1.44.53	29.	Zsuzsa Fey	ROM	1.28.59
29.	Vladimir Lucan	CZE	1.45.03	30.	Juliette Soulard	FRA	1.29.12
30.	Girts Linins	LAT	1.45.04	31.	Tina Olm-Junegard	EST	1.29.30
31.	Vyacheslav Mukhidinov	UKR	1.45.35	32.	Maria M Hoyer	DEN	1.29.46
32.	Tobias Andersson	SWE	1.45.36	33.	Frauke Schmitt-Gran	GER	1.30.18
33.	Troels Nielsen	DEN	1.45.41	34.	Natasha Key	AUS	1.30.40
34.	Marian Davidik	SVK	1.46.02	35.	Inga Dambe	LAT	1.31.10
35.	Radek Novotny	CZE	1.46.36	36.	Nina Vinnyska	UKR	1.31.51
36.	Mads Ingvarlsen	DEN	1.46.52	37.	Tania Robinson	NZL	1.31.53
37.	Jamie Stevenson	GBR	1.47.42	38.	Tracy Bluett	AUS	1.33.12
38.	Jozef Wallner	SVK	1.48.19	39.	Laure Coupat	FRA	1.33.44
39.	Jonn Are Myhren	NED	1.49.09	40.	Kulli Kaljus	EST	1.34.22
40.	Carsten Jorgensen	DEN	1.49.28	41.	Yvonne Fjordside	DEN	1.34.45
41.	Oskars Zernis	LAT	1.49.53	42.	Natalia Toman	RUS	1.35.05
42.	Oli Johnson	GBR	1.52.15	43.	Elisabeth Hohenwarter	AUT	1.35.16
43.	Gabor Domonyik	HUN	1.52.25	44.	Jo Allison	AUS	1.35.28
44.	Rob Walter	AUS	1.52.59	44.	Anke Xylander	GER	1.35.28
45.	Girts Vegeris	LAT	1.53.23	46.	Zuzana Macuchova	CZE	1.35.29
46.	John Feehan	IRL	1.54.40	47.	Laura Scaravonati	ITA	1.36.20
47.	Allan Mogensen	DEN	1.54.48	48.	Zdenka Stara	CZE	1.36.53
48.	Ingo Horst	GER	1.55.46	49.	Jolanta Razaitiene	LTU	1.37.59
49.	Fabien Pasquasy	BEL	1.55.49	50.	Anna Garin	ESP	1.38.07
50.	Nerijus Sulcys	LTU	1.57.28	51.	Giedre Voveriene	LTU	1.38.44
51.	Liutauras Bilevicius	LTU	1.58.20	52.	Kathryn Ewels	AUS	1.39.10
52.	Svajunas Ambrazas	LTU	1.58.43	53.	Katarina Libantova	SVK	1.39.41
53.	Robert Dittman	GER	2.04.56	54.	Jenny Whitehead	GBR	1.40.49
54.	Christian Mohn	AUT	2.05.13	55.	Vendula Klechova	CZE	1.40.58
55.	Carlo Rigoni	ITA	2.06.51	56.	Ieva Susta	LAT	1.41.08
56.	村越 真	JPN	2.09.03	57.	Vilma Rudzenskaite	LTU	1.41.34
57.	Nikolay Dimitrov	BUL	2.16.17		Lucie Bohm	AUT	DNF
58.	Jacek Nowak	POL	2.18.44		Elo Saue	EST	DNF
	Alistair Landels	NZL	DQ		Jenny James	GBR	DQ

クラシックディスタンス女子決勝

1.	Simone Luder	SUI	1.14.57
2.	Marika Mikkola	FIN	1.15.00
3.	Reeta Kolkkala	FIN	1.15.43
4.	Anette Granstedt	SWE	1.16.17
5.	Johanna Asklof	FIN	1.16.23
6.	Hanne Staff	NOR	1.17.07

15.	Ukraine	3.19.29		
	Spasyuk Mariya	40.50	16	
	Zabrodskaja Olena	1.20.35	14	39.44
	Vinnytska Nina	2.09.14	10	48.39
	Potopalska Nataliya	3.19.29	15	1.10.14
16.	Latvia	3.24.40		
	Susta Ieva	43.37	19	
	Dambe Inga	1.20.37	15	37.00
	Klempere Aija	2.16.52	13	56.15
	Skrastina Aija	3.24.40	16	1.07.47
17.	Canada	3.33.27		
	Hott_Johansen Alexandr	41.04	17	
	Duca Lumi	1.38.15	19	57.11
	Mahoney Cherie	2.41.43	18	1.03.28
	James Pam	3.33.27	17	51.43
18.	USA	3.50.08		
	Brautigam Pavlina	47.52	20	
	Dickison Peggy	1.42.59	20	55.06
	Williams Karen	2.53.49	19	1.10.50
	Hall Kristin	3.50.08	18	56.18
19.	Japan	4.31.56		
	金並由香	55.43	21	
	田島利佳	1.48.33	21	52.50
	落合志保子	3.02.11	20	1.13.37
	塩田美佐	4.31.56	19	1.29.45
	Lithuania	DQ		
	Voveriene Giedre	35.37	5	
	Rudzenskaite Vilma	1.10.57	3	35.20
	Razaitiene Jolanta	DQ		
	France	DQ		
	Manissolle Chloe	DQ		
	Italy	DNF		
	Scaravonati Laura	39.59	12	
	Fauner Renate	1.27.34	18	47.35
	Bertazzo Silvia	2.36.58	17	1.09.24

◎2001年8月3日

ショートディスタンス予選男子1組

1.	Pasi Ikonen	FIN	21.57
2.	Grant Bluett	AUS	24.00
3.	Fredrik Lowegren	SWE	24.01
4.	Steven Hale	GBR	24.12
5.	Thomas Buehrer	SUI	24.22
6.	Allan Mogensen	DEN	24.39
7.	Carl Henrik Bjorseth	NOR	24.44
8.	Serguei Detkov	RUS	24.45
9.	Carlo Rigoni	ITA	24.55
10.	Fabrice Erdinger	FRA	25.53
11.	Liutauras Bilevicius	LTU	26.16
12.	Jozef Wallner	SVK	26.34
13.	Martins Sirmais	LAT	26.37
14.	Dmitry Mironov	BLR	26.56
15.	Maciej Grabowski	POL	27.22
	-----予選通過ライン-----		
16.	Felix Breitschalel	AUT	27.23
17.	Marcus Pinker	IRL	27.57
18.	James Scarborough	USA	29.09
19.	Pedro Pasion	ESP	29.15
20.	Wim Peers	BEL	29.28
21.	Nick Duca	CAN	30.03

22.	Daniel Griff	ISR	31.56
23.	Lars Hommen	GER	32.46
24.	Radovan Cech	CZE	32.49
25.	Zoltan Harkanyi	HUN	33.04
26.	Richard Gathercole	RSA	33.31
27.	Mihail Mihaylov	BUL	33.55
28.	Mark Heikoop	NED	35.49
29.	鹿島田浩二	JPN	36.29
30.	Mark Lawson	NZL	39.22
31.	Armo Hiie	EST	41.22
32.	Valery Nalobin	KAZ	41.41
33.	Tomislav Kaniski	CRO	44.30
34.	Kwok Keung Yeung	HKG	56.35
	Oleksandr Mykhaylov	UKR	DQ

ショートディスタンス予選男子2組

1.	Carsten Jorgensen	DEN	23.42
2.	Tore Sandvik	NOR	23.56
3.	Girts Linins	LAT	23.57
4.	Kjetil Bjorlo	NOR	23.59
5.	Jani Lakanen	FIN	24.12
6.	Jorgen Olsson	SWE	24.26
7.	Janusz Porzycz	POL	24.28
8.	Vladimir Alexeev	RUS	24.53
9.	Troy de_Haas	AUS	25.04
10.	Gabor Domonyik	HUN	25.16
11.	Michal Jedlicka	CZE	25.19
12.	Stephen Palmer	GBR	26.02
13.	Nerijus Sulcys	LTU	26.18
14.	Matthias Niggli	SUI	26.21
15.	Tom Herremans	BEL	26.30

-----予選通過ライン-----

16.	Mati Tiit	EST	26.42
17.	Alistair Landels	NZL	26.48
18.	Pierpaolo Corona	ITA	26.53
19.	Remi Gueorgiou	FRA	27.06
20.	Wolfgang Waldhausl	AUT	27.55
21.	Tihomir Salopek	CRO	28.01
22.	Colm O'Halloran	IRL	28.26
23.	Alexandr Alexeenok	BLR	28.47
24.	Javier Gomez	ESP	29.13
25.	松澤俊行	JPN	30.17
26.	Andriy Andreyev	UKR	31.09
27.	Teodor Dimitrov	BUL	31.32
28.	Robert Micek	SVK	31.55
29.	Michael Eglinski	USA	32.25
30.	Wil Smith	CAN	33.06
31.	Gerrit van_de_Riet	NED	35.24
32.	Nicholas Mulder	RSA	37.05
33.	Kam Tat Wong	HKG	49.38
34.	Sergey Cherniavsky	ISR	52.20
	Peter Legat	GER	DQ

ショートディスタンス予選男子3組

1.	Valentin Novikov	RUS	23.10
2.	Mats Troeng	SWE	23.51
3.	Juha Peltola	FIN	23.58
4.	Matthias Gilgien	SUI	24.36
5.	Robert Banach	POL	24.38
6.	Thierry Gueorgiou	FRA	24.39
7.	Vladimir Lucan	CZE	25.33
8.	Bjornar Valstad	NOR	25.53

9.	Marian Davidik	SVK	25.56
10.	Jamie Stevenson	GBR	26.28
11.	Erik Aibast	EST	27.18
12.	John Feehan	IRL	27.57
13.	Petar Delic	CRO	28.04
13.	Tom Quayle	AUS	28.04
15.	Jan Zazgornik	AUT	28.28

----予選通過ライン----

16.	Oskars Zernis	LAT	28.43
17.	Martin Terry	RSA	28.50
18.	Greg Barbour	NZL	29.16
19.	Dmitry Mikhalkin	BLR	29.26
20.	Yuri Omeltchenko	UKR	29.28
21.	Thomas Jensen	DEN	29.40
22.	Michele Tavernaro	ITA	29.49
23.	Edgaras Voveris	LTU	30.07
24.	Ingo Horst	GER	30.36
25.	Mike Smith	CAN	30.45
26.	Ferenc Levai	HUN	33.15
27.	安井真人	JPN	34.00
28.	Hugues Petit	BEL	34.52
29.	Angel Rojas	ESP	36.48
30.	Dian Bonev	BUL	45.43
31.	Vladimir Telnov	KAZ	48.25
32.	Li Feilong	CHN	50.16
33.	Ronen Shurer	ISR	54.21
34.	Ken Walker	USA	56.54
35.	Wing Hang Lau	HKG	1.12.09

ショートディスタンス予選男子 4 組

1.	Jorgen Rostrup	NOR	22.28
2.	Marius Mazulis	LTU	22.56
3.	Janne Salmi	FIN	23.20
4.	Hakan Eriksson	SWE	23.48
5.	Rudolf Ropek	CZE	24.21
6.	Girts Vegeris	LAT	24.38
6.	MadsÅ@Ingvarsdson	DEN	24.38
8.	Mikhail Mamleev	RUS	25.15
9.	Vitaliy Gavrylenko	UKR	25.20
10.	Dave Shepherd	AUS	25.21
11.	Olle Karner	EST	25.27
12.	Urs Altorfer	SUI	25.36
13.	David Peel	GBR	26.00
14.	Daniele Pagliari	ITA	26.26
15.	Nikolay Dimitrov	BUL	26.47

----予選通過ライン----

16.	Roger Casal	ESP	27.03
17.	Francois Gonon	FRA	28.30
18.	Bence Sprok	HUN	28.33
19.	Jonn Are Myhren	NED	28.38
20.	Bill Edwards	IRL	28.40
21.	村越 真	JPN	28.50
22.	Norbert Helmingier	AUT	29.29
23.	Geert Simkens	BEL	30.22
24.	Rob Jessop	NZL	30.42
25.	Richard Lange	RSA	30.44
26.	Robert Dittman	GER	31.23
27.	Michael Fellows	CAN	31.43
28.	Eric Bone	USA	33.32
29.	Matan Naftaly	ISR	33.54
30.	Nikolaj Tarasov	KAZ	34.45
31.	Edi Ocvirk	CRO	35.43

32.	Wojciech Dwojak	POL	36.08
33.	Frantisek Libant	SVK	39.33
34.	Vyacheslav Zhuravlev	BLR	40.19
35.	Po Lok Chau	HKG	54.52

ショートディスタンス予選女子 1 組

1.	Gunilla Svard	SWE	24.19
2.	Hanne Staff	NOR	25.07
3.	Anna Garin	ESP	25.32
4.	Johanna Asklof	FIN	25.53
5.	Zuzana Macuchova	CZE	26.16
6.	Inga Dambe	LAT	26.21
7.	Tatiana Pereliaeva	RUS	26.54
8.	Karin Schmalfeld	GER	27.03
9.	Regula Hulliger	SUI	27.45
10.	Barbara Baczek	POL	27.54
11.	Kim Buckley	GBR	28.41
12.	Vilma Rudzenskaite	LTU	31.43
13.	Laura Scaravonati	ITA	32.10
14.	Maret Vaher	EST	32.29
15.	Olena Zabrodskaja	UKR	33.15

----予選通過ライン----

16.	Eszter Zsebehazy	HUN	35.00
17.	Katarina Libantova	SVK	35.01
18.	Pam James	CAN	35.15
19.	Kristin Hall	USA	36.12
20.	Jenni Adams	NZL	37.55
21.	Elisabeth Hohenwarter	AUT	39.40
22.	Idit Gershoni	ISR	40.34
23.	中村正子	JPN	41.46
24.	Chloe Manissolle	FRA	41.57
25.	Maria M Hoyer	DEN	42.15
26.	Clare Hawthorne	AUS	51.48

ショートディスタンス予選女子 2 組

1.	Anette Granstedt	SWE	22.36
2.	Reeta Kolkkala	FIN	24.12
3.	Kaethi Widler	SUI	26.00
4.	Olga Belozeroval	RUS	26.32
5.	Renate Fauner	ITA	27.59
6.	Karina Nordrum	NOR	28.10
7.	Mariya Spasyuk	UKR	29.06
8.	Jenny Whitehead	GBR	29.21
9.	Elisa Dresen	GER	30.17
10.	Giedre Voveriene	LTU	30.55
11.	Eva Jurenikova	CZE	31.16
12.	Dorthe Skovlyst	DEN	32.36
13.	Ieva Susta	LAT	33.13
14.	Elo Saue	EST	33.17
15.	Andrea Eisl	AUT	34.10

----予選通過ライン----

16.	Zsuzsanna Farkas	HUN	35.42
17.	Allison Jones	AUS	35.55
18.	Alexandra Hott_Johansen	CAN	36.41
19.	Magoli Coupat	FRA	39.55
20.	Eileen Loughman	IRL	40.07
21.	Jana Miklusova	SVK	40.58
22.	田島利佳	JPN	41.02
23.	Karen Williams	USA	42.34
24.	Anna Amigo	ESP	54.19
25.	Linda Verbraken	BEL	56.46
26.	Alla Arhipova	KAZ	1.03.14

Tania Robinson	NZL	DQ
ショートディスタンス予選女子3組		
1. Vroni Konig-Salmi	SUI	24.11
2. Lucie Bohm	AUT	25.18
3. Jenny Johansson	SWE	25.57
4. Anniina Paronen	FIN	26.21
5. Anna Gornicka-Antonowicz	POL	26.29
6. Birgitte Husebye	NOR	26.49
7. Ieva Sargautyte	LTU	27.36
8. Laure Coupat	FRA	28.29
9. Vendula Klechova	CZE	28.36
10. Anu Annus	EST	28.39
11. Zsuzsa Fey	ROM	28.56
12. Natasha Key	AUS	29.03
13. Youliya Siedina	RUS	29.17
14. Nataliya Potopalska	UKR	29.59
15. Heather Monro	GBR	30.20

----予選通過ライン----

16. Anne K Olesen	DEN	31.44
17. Jana Slamova	SVK	33.10
18. Katrin Renger	GER	33.58
19. 落合志保子	JPN	38.22
20. Faye Pinker	IRL	39.06
21. Cherie Mahoney	CAN	43.05
22. Eva Makrai	HUN	49.11
23. Kathy Kitchin	RSA	52.23
24. Inna Faingold	ISR	53.33
25. Agnese Uzule	LAT	56.16
26. Eileen Breseman	USA	59.33
27. Hiu Yin Lo	HKG	1.17.34

ショートディスタンス予選女子4組

1. Simone Luder	SUI	24.28
2. Diana Vosyliute	LTU	26.06
3. Katalin Olah	HUN	26.10
4. Frauke Schmitt-Gran	GER	26.41
5. Nina Vinnytska	UKR	26.45
6. Annika Viilo	FIN	26.58
7. Maria Sandstrom	SWE	27.17
8. Helene Hausner	DEN	27.35
9. Tracy Bluett	AUS	27.55
10. Kulli Kaljus	EST	28.04
11. Jenny James	GBR	28.12
12. Ingunn Fristad	NOR	29.42
13. Encarna Maturana	ESP	30.08
14. Irina Mikhalko	RUS	30.13
15. Rachel Smith	NZL	30.35

----予選通過ライン----

16. 金並由香	JPN	33.05
17. Silvia Bertazzo	ITA	33.26
18. Juliette Soulard	FRA	33.33
19. Zdenka Stara	CZE	33.44
20. Martina Rakayova	SVK	34.06
21. Atanaska Bedeleva	BUL	34.15
22. Ulrike Hartinger	AUT	34.21
23. Pavlina Brautigam	USA	37.11
24. Yalina Kornilova	KAZ	46.31
25. Lumi Duca	CAN	47.24
Toni O'Donovan	IRL	DQ
Aija Skrastina	LAT	DQ

◎2001年8月4日

ショートディスタンス男子決勝

1. Pasi Ikonen	FIN	23.41
2. Tore Sandvik	NOR	24.02
3. Jorgen Rostrup	NOR	24.15
4. Jani Lakanen	FIN	24.42
5. Juha Peltola	FIN	24.53
6. Mats Troeng	SWE	25.05
7. Carsten Jorgensen	DEN	25.07
8. Carl Henrik Bjorseth	NOR	25.08
9. Kjetil Bjorlo	NOR	25.16
10. Janne Salmi	FIN	25.29
11. Thomas Buehrer	SUI	25.34
12. Robert Banach	POL	25.38
13. Marius Mazulis	LTU	25.48
14. Matthias Gilgien	SUI	26.16
15. Valentin Novikov	RUS	26.17
16. Hakan Eriksson	SWE	26.21
17. Jorgen Olsson	SWE	26.27
18. Vladimir Lucan	CZE	26.30
18. Thierry Gueorgiou	FRA	26.30
20. Urs Altorfer	SUI	26.33
21. Vladimir Alexeev	RUS	26.37
22. Fredrik Lowegren	SWE	26.57
23. Mikhail Mamleev	RUS	27.09
24. Bjornar Valstad	NOR	27.18
25. Matthias Niggli	SUI	27.21
26. Erik Aibast	EST	27.32
27. Girts Vegeris	LAT	27.44
28. Janusz Porzycz	POL	27.57
29. Serguei Detkov	RUS	28.19
30. Grant Bluett	AUS	28.40
31. Olle Karner	EST	28.44
32. Rudolf Ropek	CZE	28.53
33. Michal Jedlicka	CZE	28.54
34. Jamie Stevenson	GBR	28.57
35. Stephen Palmer	GBR	28.58
36. John Feehan	IRL	29.11
37. Nerijus Sulcys	LTU	29.21
38. Troy de Haas	AUS	29.32
39. Liutauras Bilevicius	LTU	29.44
40. Carlo Rigoni	ITA	29.47
41. David Peel	GBR	29.57
42. Jan Zazgornik	AUT	30.08
43. Dave Shepherd	AUS	30.33
44. Nikolay Dimitrov	BUL	31.14
45. Gabor Domonyik	HUN	31.24
46. Girts Linins	LAT	31.30
47. Maciej Grabowski	POL	31.56
48. Tom Herremans	BEL	32.04
49. Marian Davidik	SVK	32.05
50. Jozef Wallner	SVK	32.25
51. Mads Ingvaldsen	DEN	32.55
52. Martins Sirmais	LAT	33.21
53. Fabrice Erdinger	FRA	33.27
54. Allan Mogensen	DEN	33.32
55. Dmitry Mironov	BLR	33.56
56. Steven Hale	GBR	35.00
57. Vitaliy Gavrylenko	UKR	35.15
58. Daniele Pagliari	ITA	36.07

59.	Tom Quayle	AUS	37.07	29.	Ingunn Fristad	NOR	30.29
60.	Petar Delic	CRO	37.30	30.	Kim Buckley	GBR	30.41
ショートディスタンス女子決勝							
1.	Hanne Staff	NOR	25.41	31.	Natasha Key	AUS	30.55
2.	Jenny Johansson	SWE	25.54	32.	Barbara Baczek	POL	31.07
3.	Gunilla Svard	SWE	25.58	33.	Olga Belozeroва	RUS	31.22
4.	Simone Luder	SUI	26.27	34.	Tracy Bluett	AUS	31.29
5.	Reeta Kolkkala	FIN	26.33	35.	Andrea Eisl	AUT	31.35
6.	Johanna Asklof	FIN	26.41	35.	Laure Coupат	FRA	31.35
7.	Anniina Paronen	FIN	26.43	37.	Encarna Maturana	ESP	31.56
8.	Vroni Konig-Salmi	SUI	27.08	38.	Vendula Klechova	CZE	31.57
9.	Karin Schmalfeld	GER	27.12	39.	Irina Mikhalko	RUS	32.03
10.	Frauke Schmitt-Gran	GER	27.13	40.	Jenny Whitehead	GBR	32.24
11.	Karina Nordrum	NOR	27.18	40.	Mariya Spasyuk	UKR	32.24
12.	Tatiana Pereliaeva	RUS	27.24	42.	Diana Vosyliute	LTU	32.35
13.	Kulli Kaljus	EST	28.05	43.	Elisa Dresen	GER	32.40
13.	Kaethi Widler	SUI	28.05	44.	Nina Vinnytska	UKR	32.54
15.	Eva Jurenikova	CZE	28.07	45.	Ieva Sargautyte	LTU	33.40
16.	Maria Sandstrom	SWE	28.25	46.	Renate Fauner	ITA	33.44
17.	Heather Monro	GBR	28.27	47.	Nataliya Potopalska	UKR	33.50
18.	Lucie Bohm	AUT	28.43	48.	Olena Zabrodska	UKR	33.53
19.	Annika Viilo	FIN	28.59	49.	Giedre Voveriene	LTU	34.11
20.	Anu Annus	EST	29.07	50.	Rachel Smith	NZL	34.16
21.	Anna Garin	ESP	29.33	51.	Anna Gornicka-Antonowicz	POL	34.48
22.	Birgitte Husebye	NOR	29.36	52.	Anette Granstedt	SWE	35.29
23.	Vilma Rudzenskaite	LTU	29.38	53.	Elo Saue	EST	36.01
24.	Laura Scaravonati	ITA	29.47	54.	Maret Vaher	EST	36.52
25.	Zuzana Macuchova	CZE	29.53	55.	Dorthe Skovlyst	DEN	38.18
26.	Regula Hulliger	SUI	30.13	56.	Ieva Susta	LAT	38.21
27.	Jenny James	GBR	30.18	57.	Inga Dambe	LAT	38.25
28.	Zsuzsa Fey	ROM	30.20	58.	Katalin Olah	HUN	39.15
				59.	Helene Hausner	DEN	39.31
				60.	Youlia Siedina	RUS	40.34



今回から新しい種目として採用されたスプリント競技の上位入賞者 左から
 2位 Johanna Asklof (FIN) 2位 Pasi Ikonen (FIN) 1位 Vroni Konig-Salmi (SUI)
 1位 Jimmy Birklin (SWE) 3位 Jorgen Olsson (SWE)、3位 Simone Luder (SUI)

第19回オリエンテーリング世界選手権大会報告書

発行：WOC SQUAD JAPAN

発行日：2001年9月8日

発行人：宮川 達哉

編集：藤井 範久

事務局：小林 岳人

273-0046 千葉県船橋市上山町 1-88-1

ルーラルタウン壱番館 A-204

047-339-1723
